

今日の説教のポイント<創世記 23 章 1～20 節>

①死→服喪→墓地獲得→埋葬、の話。ということは「終活」の教え？

妻サラが死んだ後にアブラハムが取り組んだことが順番に記されています。一つ一つの言動に思いが込められており、「終活」について教えられるようですが、実はもっと深い内容が語られているのです。

②神様の約束は、結局、かなえられなかったのか？

アブラハムは突然神様から、「私が示す地に行きなさい。あなたを祝福する」(12:1-3)と呼びかけられて、サラと共に故郷ハランの地を旅立ちました。そしてやって来たカナンの地でサラは死んだのですが、アブラハムは、「自分は寄留者なので、墓地とする地を譲ってほしい」と語っています。神様の祝福の約束が成就する前に死んでしまったということでしょうか？ どう考えたらいいのでしょうか？

③故郷に戻らず、寄留地に墓地を買い求めたことが持つ意味とは？

アブラハムはサラの死に自分の近い将来も見たことでしょう。故郷に帰ってサラを埋葬することもできたはずですが。しかし彼はそうせずに寄留地に土地を買って埋葬したのです。すなわち、彼は神様が示されたからここまで来た地へブロンで最後まで生き続けることを決めたのです。サラの死という悲しみは、アブラハムに神様への失望をもたらしたのではなく、死の先も含めて神様に信頼して生きていくという、新たな信仰の道を開くものとなったのです！ すなわち、寄留地で持つ墓は、神様が用意して下さっている約束をなおも信じていることを示すしとなったのです！（マクペラの洞窟には6人が葬られ[49:29以下]、ヘブロンは神様がダビデの最初の都とされた[サムエル記下2:1以下]）

④信仰者の幸いは、死の先も神様にお委ねして今を生きられること！

人の死に際し、その人との別れを悲しむこと、その人への愛ゆえに遺体を丁重に葬ること、また、厳粛な思いでその葬りの席に列すること等は信仰者も大事にすべきことです。しかし同時に、信仰者は、神様の約束の成就が死の先に用意されていることを知って墓に入り行く者たちなのです。マクペラの墓も忘れられる時が来ました。墓を守ることが大事なのではなく、墓が示すその先にあるもの、神様の約束の成就を固く信じて生きる信仰者となることが大事なのです！（ヘブライ 11 章）